

# 『障害児のための防災』

## を考えるプロジェクト

NPO法人ぴーす（元 堺おもちゃ図書館ぽっぽ）

NPO法人ぴーす 紹介

堺市在住の全ての障害児と家族の「家庭支援」をしている団体  
スタッフのほとんどは「障害児の母親」

当事者の感性を大切に「たのしく暮らす」ことを応援しています

# 『障害児のための防災』を考えるプロジェクト

## ■ 1 養護学校保護者向けの防災勉強会を実施

新潟から体験者を招き、話を聞く

堺市で、防災に取り組んでいるNPO法人に勉強会をしてもらう

## ■ 2 養護学校対象にアンケート調査を実施

## ■ 3 アンケート結果を元に、冊子を作成

## ■ 4 アンケート結果を元に、シンポジウムを実施

# アンケート調査 (1)

- 当初は堺市の3つの養護学校が対象だった（約600名）

隣市にも堺市の子どもが通う養護学校がある  
堺市内に聾学校がある

2校の保護者から「自分達も参加したい」との申し出

- 予定を変更し、5校を対象にする（845名）

# アンケート調査 (2)

- アンケート内容の作成は、6月～10月（5ヶ月間）  
障害福祉・教育・防災関係者などにも検討をお願いする
- アンケート作成の流れ
  - 企画 : ピーす事務局が第一案を作成
  - 第一案 : ピーすスタッフが、実際に回答記入 / 検討し第二案作成
  - 第二案 : 外部協力保護者が実際に回答記入 / 検討し第三案を作成
  - 第三案 : 堺市内の障害者生活支援センター（11箇所）  
各学校の校長・教頭などに提出  
/ 助言を受け最終案を作成
  - 最終案 : チャレンジプラン実行委員会に提出 / 助言を受け検討

完成

# アンケート調査(3)

## ■ 配布、回収について

5校の学校の全面的協力で、配布と回収を行う (11月前半)

回収 442名 (52%)

## ■ 集計

各学校保護者などから協力者を募る。

15名の協力を得て実施。(11月後半)

# 冊子の制作 (1)

## 目的

- 防災にあまり関心がない人も読んでもらえるものにする
- 数字の羅列ではなく、結果から「わかること」を記載すること
- 自分でできること、学校 / 地域 / 堺市にお願いしたいことが提案できること

# 冊子の制作（２）

## ■ 分析

検討会議を4回実施 / その度に原稿にし報告書を仕上げる / 冊子にする部分を選び原稿にする  
冊子だけでは伝えられない大事なことが！  
予定を変更し報告書も作成することになる

## ■ 印刷

冊子：イラストを養護学校児童に依頼  
イラストと原稿を揃え、印刷会社へ発注  
報告書：自分達で印刷／製本

# 冊子制作（3）

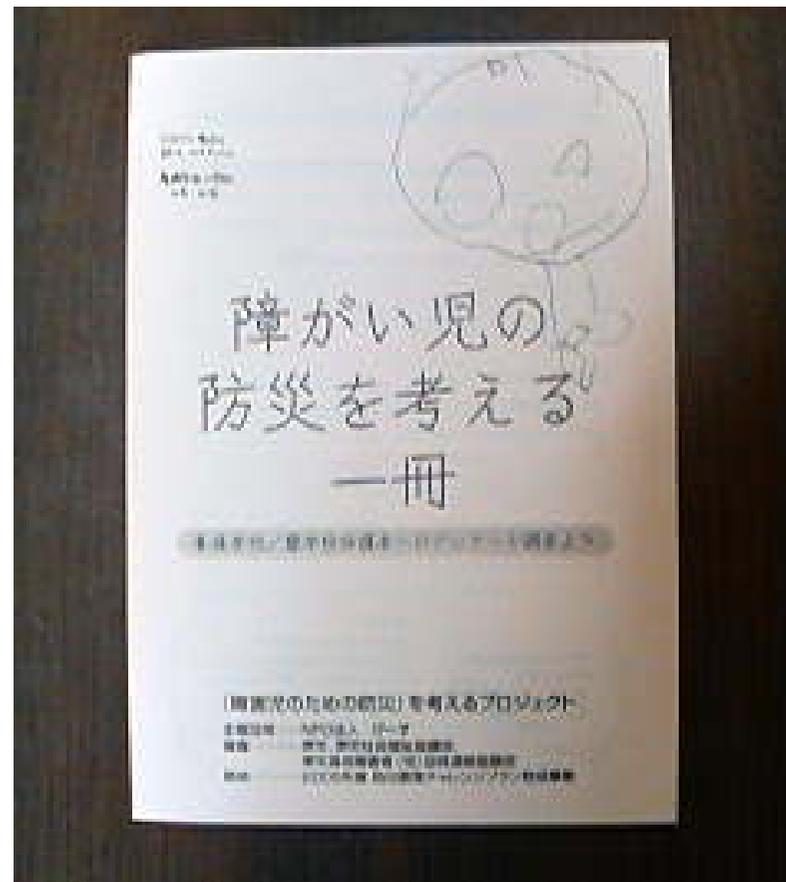
## 完成品

1：冊子

1000冊予定を  
2000冊に変更

2：報告書

300冊印刷



# 冊子の内容 (1)

本日、特にお伝えしたいこと

- 知的障害を有する 81% ページ3

知的障害への「具体的対策」の必要性

少なくともいい、具体的な提案を！

# 冊子の内容（ 2 ）

## ■ 知的障害児家族の 「不安」

- 1 : 確保 / 自分達に必要な物や場所を確保できるか
- 2 : 理解 / 周囲の人は障害を理解してくれるか
- 3 : 行動 / 障害の特性でする本人の問題行動を軽減できるか

# 冊子の内容（3）

## ■ 知的障害への「具体的対策」

### 1：確保 / 物や場所を確保できるか

- ・ 障害児だからこそ必要な物は、まず我が家で準備  
サイズなどが特殊なオムツや下着、服  
こだわりのおもちゃやグッズ
- ・ 自分で伝えられない子への工夫

伝えられない子 56%

防災手帳やカードの取り入れの検討

# 冊子内容 (4)

## ■ 知的障害への「具体的対策」

2：理解 / 周囲に障害を理解してもらえるか

- ・ 日頃からの、市民啓発活動

学校教育 / 地域啓発 / 行政の役割

- ・ 家族自らの地域交流

地元の学校との交流 / 自治会などへ参加

# 冊子内容 ( 5 )

## ■ 知的障害への「具体的対策」

- 3 : 行動 / 障害特性上の行動を軽減できるか
- 視覚的支援など具体的支援方法の取り入れ
- イラスト / シンボルでの伝達
- 場所や活動の意味の明確さ
- カームダウンできる場所

# シンポジウムの実施

- 目的  
アンケートの報告をし、それを元にディスカッションする
- 当初予定では、  
新潟や神戸から体験者を招き話し合う  
チャレンジプラン中間報告の際の助言を元に、内容を変更  
堺市の防災担当者や防災に取り組んでおられる方を招くことに

# シンポジウム 概要

- 平成18年 1月31日
- 堺市総合福祉会館
- 参加 73名
  
- アンケート報告
- 堺市出前講座
- シンポジウム



# シンポジウムの内容（１）

- アンケートの報告  
報告者  
NPO法人ぴーす理事長  
小田多佳子



# シンポジウムの内容（２）

## ■ 堺市「出前講座」 災害に備えて

講師：

堺市危機管理室長  
柴藤貞一氏



# シンポジウムの内容

## ■ シンポジウム

野田まちづくり協議会  
代表 森田正朝氏  
(防災マップ作りなど)  
堺市危機管理室  
主査 酒谷信行氏  
堺市障害福祉課  
主査 土井有羽子



# プロジェクトを振り返って

- 養護学校 / 聾学校という「地域にない学校」の問題がわかり、学校に伝えることができた。
- 堺市健康福祉局より現在作成中の「防災マニュアル」に参考にしていただけると連絡をもらった。
- 防災に関心を持つ障害児保護者を増やせた。
- 読売新聞から冊子についての取材を受けた。記事になるとのこと。

# 今後の展開

- **保護者**：「肢体不自由・視覚障害・聴覚障害・高機能発達障害・重度重複」等の様々な障害種別の違い及び「地域小学校・中学校・通園施設など」在籍場所の違いにより、ニーズが違う  
「障害児とその家族」がそれぞれに我がニーズに応じた防災研究を、各保護者が自らできるように支援していきたい。
- **子ども達**：障害種別や程度の違いに合わせた「障害児自身が学ぶ（体験する）防災教育」を研究していきたい